

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

和歌山県 みなべ町

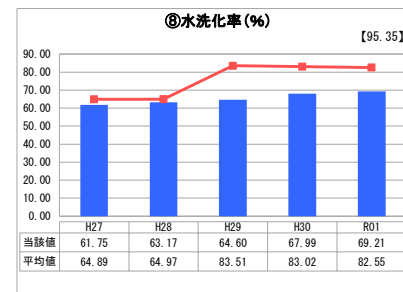
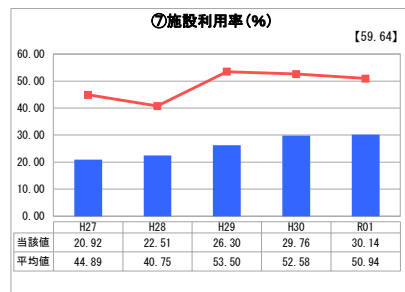
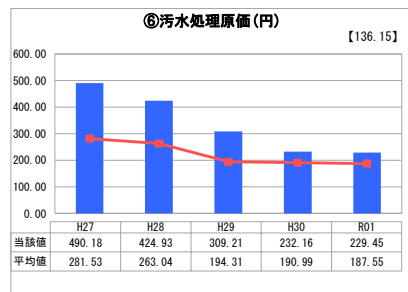
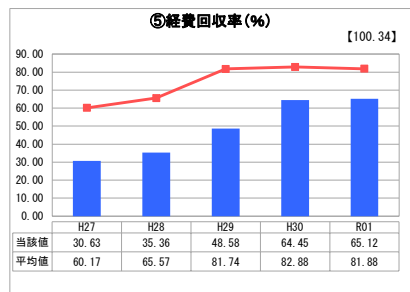
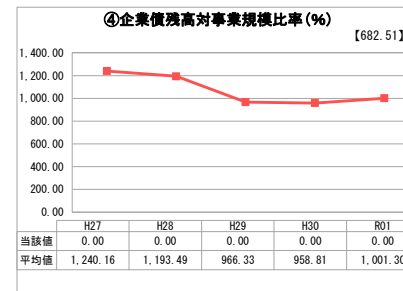
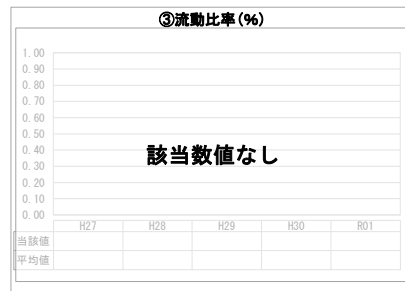
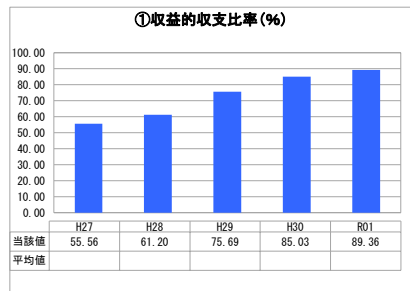
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	76.88	98.65	2,750

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,585	120.28	104.63
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,573	2.70	3,545.56

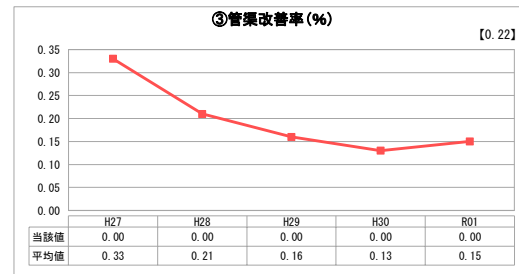
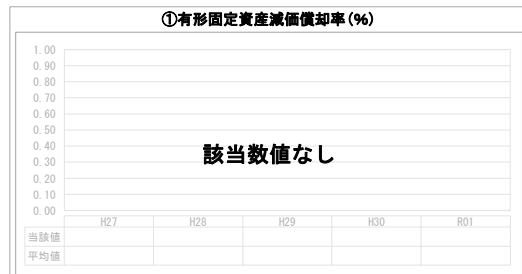
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率として、単年度の収支が赤字となっている要因として整備区域の拡大に伴う建設費に係る地方債の償還金が増加であり、一般会計からの繰入金に依存している状況です。

⑤経費回収率⑥汚水処理原価については、維持管理費、汚水処理費の削減の観点から、農業集落排水5地区を接続することにより、使用料収入の増加が考えられるが、一般家庭での接続率の向上と、公共下水道区域となることにより事業所排水を受け入れることが可能となるので訪問により接続の啓発を行い、使用料収入の増につなげたいと考えています。ただ、流入汚水量が増加すれば脱水汚泥量が増加し、処分費用などが増加傾向になるが、みなべ町内に建設の汚泥堆肥化施設が今年度より稼働しているため、運搬費等が軽減され、維持管理費用が削減される傾向にある。

⑦施設利用率については、整備区域が広がり更なる接続率の向上が課題となっています。平成30年度までに5地区すべての編入が完了しました。それに伴い、編入した5地区の排水及び事業所用排水の接続が可能となり、接続率、水洗化率の向上を図る取り組みを行い、経営の健全化を図りたいと考えています。

### 2. 老朽化の状況について

現在、耐用年数が経過している施設はありません。

## 全体総括

平成18年度にみなべ町汚水処理構想計画を見直し、農業集落排水5箇所を公共下水道区域とし令和元年度に整備区域を見直し(289ha)現在の整備進捗率は93%程度となっています。平成14年10月1日に供用開始し、令和元年度末における普及率は、76.9%、水洗化率69.2%となっています。現在は建設途上であり、水洗化の推進、適正な維持管理に努めているが、収支の不足分は一般会計からの繰り入れにより補填している状況です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。